

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも年度初めには、理念を振返る研修を行い前向きに取り組んでいる。	事業所独自の理念を掲げており、理念の実践ができるよう玄関・事務室にも理念を掲示し、職員会議や新人研修でも理念を周知する機会を設けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集会・行事には参加している。園内報も地域に回覧して、施設の事も地域の方に知ってもらうようにしている。	地域の納涼会や運動会に参加したり、事業所が主催で認知症に関する研修会を開催し地域の方にも参加していただきました。また、地域の清掃活動やアルミ缶収集にも協力したり、保育園の発表会に見学に出かけるなど、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年、一昨年は認知症の講演会を行っていたが、今年は「認知症サポート養成講座」を地域と共に取組み、理解を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、施設の概要を報告し、意見を聞き、サービス向上に努めている。	運営推進会議は町内会長、ご家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員から出席してもらっています。参加者へ事業所の活動報告や事故報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時、市の担当者と連絡をとり、相談・助言を受けている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイス頂いているほか、事故報告や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの入り口のドアに鈴をつけて開閉が分かるようにしたり、ユニット間のドアは自由に開閉し、行動範囲を広げいつでも行き来できるようにしている。又出来るだけ薬に頼らず睡眠が確保できるよう働きかけを行っている。	事業所として身体拘束は行わない方針のもと、事業所でも身体拘束に関するマニュアルの見直しを行い、職員の理解も深めるようにしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から利用者の関わりについて話し合い、ミーティングで意見交換や確認を行っている。外部研修に積極的に参加し、内部研修で研修報告を行い、知識を深め日常的に防止に努めている。	職員が虐待防止に関する外部研修に参加し、職員会議でも研修の機会を設け、虐待の防止を徹底しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講師を招いて研修会を行おうと計画は立てている。利用者様に保佐人が着いている方が居られる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書・重要事項説明書について、分かりやすく説明し、納得をいただいた上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度から家族会を発足しました。行事などを通してご家族の希望をお聞きして運営に反映していきたい。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。定期的にご家族との交流を図れるように家族会も発足させ、敬老会などの行事の際は集まって頂く予定です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の全体会議を設け、話し合いの機会を作っている。希望等アンケートもとっている。	毎月のユニット会議で意見や要望を確認しているほか、管理者は日常の業務の中でも職員からの意見を確認しています。また、年に2回は全体会議も実施し、職員の意見を踏まえた環境の改善に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のユニット会議や日々の職員との会話の中から意見や要望を把握し、出来る事から実施に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に必要な研修は、リーダー会議で取り上げ内部研修で行っている。外部研修については、希望も取り入れ計画的に積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議等に参加し、ケアマネ間のネットワーク作りやサービスの質の向上への取り組みを図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との個別に対話する時間を作り、安心感を持っていただくよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心配事を十分に聞き入れ、不安のないよう、何でも話していただけるような状況になるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に暫定プランを示し、ご希望をプランに組み入れ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私達が知らない昔ながらの技法・技術などを教えてもらい、それを取り入れたりするので良い関係が生まれている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係は、切り離しての幸せはない。いつも相談しながら目的を共にして支援している。	年に4回の事業所広報の送付や、毎月居室担当職員からご利用者の生活の状況をまとめたお手紙を送るなどの情報提供も行っています。また、ご利用者の誕生会に来ていただけるご家族もあり、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度から個別外出支援事業を取り入れた。ご本人の行きたい所、食べたい物、したい買物などご本人の希望に添うべく取組みを行っている。	知人や親せきの方から面会に来ていただいたり、ご家族の支援のもとお墓参りに行かれるご利用者もいます。また、ご利用者の要望に合わせた個別の外出支援も取り入れ、外食や買い物に出かけたり、パチンコに行かれるご利用者もあり、なじみの関係が継続できるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の意向や相性等に配慮した食席選びをしている。トラブルや訴えがあれば早期対応に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば支援している。遠く離れた娘さんの所へ行かれた方。娘さんから何回か連絡があって、手紙を書いたり写真を送ったりし対応した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別処遇が基本なので出来る範囲で対応している。良かれと思ってご本人の意に合わないことは職員は強制せず、共通理解をもって支援している。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にお本人・ご家族から情報を得て、記録に残し、職員間で共有し、活用している。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。また、日々の生活で得られた情報についても定期的に情報の更新も行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の生活リズム、1週間の生活リズムを把握して、個別ケアを少しずつ増やしていける様取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングとご利用者・ご家族の意向を反映させた介護計画を作成している。	介護計画に関しては6ヶ月毎の短期目標を設定し、毎月担当職員が評価を行い、ご利用者・ご家族からの要望も確認し、介護計画の見直しもされています。	調査時点でモニタリングが行われていなかったり、介護計画の見直しが遅れていたり、日付の誤りがあったご利用者もいるので、改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録以外にも特記事項や申し送りノートを活用して情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の代わりに代行申請を行ったり、緊急時の受診支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの受け入れ、季節毎の行事、ドライブ、外出支援を取り入れ楽しみを持って生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望される医師にかかっている。嘱託医の場合月2回の往診があり、緊急時には、往診も可能。歯科往診も行っている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、ホームに往診も来て頂きます。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じご利用者の情報をまとめた資料を医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は居ないし、訪問看護も入っていないので嘱託医に連絡をとり、指示をうけている。ご家族と連絡をとりながら職員の情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されると1週間位でお見舞いに行き、ソーシャルワーカーさんと病状のこと、退院の見通し等相談する。必要があればご家族とも同席していただく。退院時には介護職員も行き退院指導も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書の中に看取りに対する考えを明記し、契約の際ご家族に説明を行っている。	重度化した際の対応の方針をまとめ、入所の際にホームでできることを伝え、看取りは行わないことを説明しご家族にご理解いただいています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故のマニュアルを備えて、発生時には速やかな対応ができるよう心掛けています。AEDの使い方・救命救急法の講習も受けており、緊急時に対応出来るよう訓練している。	消防署員に来て頂き事業所にて救命講習やAEDの使用研修も行い、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施している。居室にヘルメット・タオル、洗面台のカガミの所にご本人の搬出方法を書いた紙が貼ってある。非常食も用意してある。地域の訓練にも参加することになっている。	年2回、地震や夜間の火災を想定した避難訓練を行っており、地域の消防団にも参加してもらっています。また、災害時に備えて、非常食の確保もされていました。	調査時点で非常用の食品の在庫が管理表の数よりだいぶ少なくなっていましたので、定期的に確認されることを期待します。また、地震を想定した避難訓練も行うようにし、緊急連絡用に職員のメールアドレスも把握されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には、利用者様は人生の大先輩であること、話す言葉は、敬語が基本であることは自覚を持ってもらっている。前回の指摘のあったことで広報誌の回覧についてもご家族から同意を得ている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるよう徹底されています。また、広報への写真の掲載についても書面で同意を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉で話しかけ意思疎通を図り、複数の要望がある場合は、選択していただけるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のやりたいことを優先するよう努力している。散歩等で気分転換を図ることも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回理容所の方に来てもらい希望のカットをしていただいている。美容師も来てくださる。職員は希望者に毛染めを行っている。毎朝好みの洋服を着ていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りに協力していただいている。行事食も手伝ってもらうことが多い。外食等も楽しめるよう工夫している。	ご利用者にもできる範囲で、調理の下準備や、後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でもさつまいもやじゃがいもなどの野菜をつくっており、収穫や調理をご利用者と一緒に楽しんでいます。また、レストランに外食に出かけたり、ちらし寿司やヨモギ団子作りを行うなどし、ご利用者に食事を楽しんで頂けるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、専門の栄養士がカロリー計算をしている。食材は宅配を利用。食事量・水分量は把握できている。本人に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前にうがいを行い、食後には歯磨き等を行っている。出来る方は見守り、出来ない方は一部介助、仕上げまで行っている。夕食後は洗浄液等に浸して対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	データーをとり、排泄のパターンを掴み、又仕草・様子などで察知し、声かけや誘導で失禁・汚染をなくし、快適に過ごしていたできるようケアプランにも盛り込んでいる。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録・便秘気味の方の把握により、水分摂取の促し、ラジオ体操、散歩等で体を動かし、便秘軽減に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施しているが、ご本人の希望や体調により変更もしている。可能な限り時間帯も回数も希望を取り入れている	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援をしています。調査時点で入浴チェックの記録に記録モレがある個所がありました。	入浴チェック表の記録モレが生じないように、職員会議で検討の機会を設け、改善されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も一人ひとり違うため、個々のペースにて、休んでいただく様努めている。昼食後も午睡を促し、安心して休んでいただける様みまもっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を綴じ込み、効能・量・副作用について確認し、職員が皆分かるようにしている。変更時には、申し送りノートに記入し、共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味を把握し、個別での支援を行っている。洋裁・俳句・編み物・料理等様々な趣味が活かせるよう担当者が支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい所・見たい所・買いたい物など、事前に把握し、希望に添った外出支援をしている。	天候に合わせてご利用者と一緒に散歩やスーパーへ買い物に出かけたり、季節に合わせたお花見や紅葉見学、水族館へ出かけるなどのイベントとしての外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かり金として事務で預かっている。必要な物を職員がその中から買ってきている。1名の方はご自分で持って居られる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は書いていただいているが、普段は行っていない。希望があれば支援したい。電話はかかって来た時に変わっていただくことはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには常に職員が花を飾り、季節感を味わっていただくよう努力している。リビング・廊下等の照明・温度・湿度の調整に努めている。	飾られている写真やご利用者の作品も季節に合わせてあります。共有スペースにはソファも置かれており、ご利用者同士がゆっくりとテレビを見れる環境になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、小上がり等でご自分のペースでご自分の時間を過ごしていただける様努めている。行事等の写真を壁に貼り共通話題が持てるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・キャビナット等、使いやすいように配置していただいている。馴染みの家具等持ち込んでいただき、ご自分の部屋らしくご家族から協力を得ている。	居室には、ベッドやテレビ、コタツなど、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには、手摺りがされており、歩行の不安定な利用者様にも配慮されている。居室・トイレが分かるように手作り表示を作り支援している。		